

・・・はなのむらの四季・・・

センダン(梅檀)の花と実

小関 栄

昔、粟本小学校(四十年前に掛川城北小学校として移転)の校庭の真ん中に樹形の良いセンダンの大木があった。

この木は四季を通じて子供たちを楽しませてくれた。春には鮮やかな黄緑を芽吹き、初夏に小さな矢車草のような淡紫味の白い花を付け、盛夏には四方に伸びた枝に濃緑の葉が生茂る。秋落葉した後は指先ほどの黄褐色の房状の珠玉(実)を残す。その実も落ちた木は手を挙げたように寒空に広がった樹形で、学校のシンボルツリーになっていた。

この木の実はヒヨドリが好物、食べて種を蒔き散らすので、どんどん増えて、近くにはセンダンの木が実に多い。

梅檀とは難しい文字だがレッキとした和名。その実の样子の千珠(せんだま)が詠ったもので、古くは棟(「おうち」とも読む)と云い、万葉の昔から各地に多く、親しまれてきた。万葉集、枕草子、新古今集などに「あふち」「おうち」といって、詩歌に詠まれていた。もっとも、この語源には江戸時代にサンスクリット語のチャンダナ Candana を音読して呼称したと云う説もある。

「梅檀は双葉より芳し」と云われ、この木は独特の香りがある。この木と同類である白檀は香木として珍重されている。また、樹皮は漢方の駆虫薬、鎮痛剤、皮膚剤などに使われ、花からは芳香油を採り、実を絞った油からはペンキや潤滑油を採る。

センダンは春の新緑、初夏の花、初秋の緑の実、晩秋の褐色の実、それから樹形整った冬の木と四季を通じて何時でも美しいが、中でも落葉後に黄金色の珠玉のような実を付けたセンダンの木の眺めが最もよい。(上掲写真は水垂公民館の広場で11/25に撮影。下の写真は同じ木の初夏の花と晩秋のセンダンの実を撮影したもの。(24.11.25.記)



木枯らしに 黄金の千珠 こぼれけり 淡水

センダンの花(24年6月25日撮影)



センダンの実(24年11月5日撮影)

